

平成22伊万里市立山代東小学校 学校評価結果

1 学校教育目標
自ら学び、正しく判断して行動する、健康で心豊かな児童の育成

2 学校経営ビジョン
<p>「めざす児童像」 笑顔「やる気・思いやり・がまん」</p> <p>やる気: 進んで学ぶ子、よく聞き、よく考えて正しく判断する子、夢やこれがれを持つ子、<b>思いやり</b>、人(心)を大切にする子、礼儀正しい子、自他の生命を尊重する子、<b>がまん</b>、最後までやりぬく子、進んで体をきたえ子、約束やきまりを守る子</p> <p>「めざす教師像」 山東り方条、〇感謝の心を持つ。〇協働意識を高く持つ。〇個性を発揮する。〇連携を大切にす。</p> <p>〇評価を大切にす。〇積極的に対処する。〇プロの教師として使命感を抱く。</p> <p>「めざす学校像」 〇心の教育と学力向上を車の両輪とする 〇「美しいこころ 日本」をめざして、学び合いを大切にす。 〇家庭・地域との連携を強化するとともに、開かれた学校をめざす。</p>

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p><b>1 学力向上</b></p> <p>〇基礎・基本の定着〇国語科授業研究〇学び合い・高め合う学習過程・言語活動の工夫</p> <p><b>2 豊かな感性の醸成</b></p> <p>〇体験活動の充実〇歌声の響く学校〇「いのち」の教育の充実〇人権・同和教育の推進〇「伊万里っこくさ」の推進</p> <p><b>3 家庭・地域との連携</b></p> <p>〇基本的な生活・学習習慣の定着〇家庭学習の時間確保〇家読推進〇子育てに関する啓発や相談活動の充実</p>	<p>・教育目標の達成に向けた職員の参画意識も高まり、創意工夫のある積極的な取組がなされ、児童も落ち着いた学校生活を送っている。また、児童の豊かな感性を育てるために、学校行事をはじめ、各学年においても様々な体験学習が仕組まれ、児童の学ぶ意欲についても高まりつつある。しかしながら学力面においても生活面においても、まだまだ十分に効果が上がっていない。その要因として、欠席の日が年間数日しかないことからわかるように、基本的な生活習慣や学習習慣が身に付いていないことが挙げられる。</p> <p>また、テレビやゲームに費やす時間は多いが、家庭学習時間は少ないなど、家庭での過ごし方にも問題がある。これらの課題を解決するために、魅力ある授業づくりを進め、児童に学ぶことの大切さや喜びを体感させなくてはならない。</p> <p>そして、家庭と一体となって課題に取り組めるよう、学校からの情報を発信するだけでなく、語り合える場を設定して双方向的なかわりができるようにしていきたい。</p>

5 総括表	領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題	
学校運営	〇学校経営方針		〇学校目標及び重点項目の周知	(1)児童・保護者・教職員への周知を図る。(周知率は児童・保護者80%以上・教職員100%)にする。	B	・職員への周知は、昨年と変わらず97.1Pであったが、保護者の周知率は76.9Pであり、まだまだ十分とは言えない。	・職員会議、全校朝会等での説明により、意識を高めている。 ・学校だより(月2回)発行や子育てに関する啓発資料を配付する。	・教職員は、学校教育目標や重点項目を十分に理解し、学校経営や自己の目標と照らして教育効果を上げている。しかし、保護者アンケートでは、まだまだ、目標の項目もあり、学校の取組への理解が十分ではないと言えない。本年度は、日曜参観日「本音でトーク」を実施し、保護者同士が本音を語り合う機会があったが、教職員との意見交流はできなかった。しっかりと意見を交流し、協力を呼び掛ける場の設定が必要である。
	〇危機管理体制の整備	〇危機管理能力向上と職員の信用失墜行為の防止	(1)危機管理マニュアルに基づいた行動や対応ができる職員を100%にする。 (2)職員に対する信用失墜行為防止に関する周知率を100%にするるとともに、信用失墜行為の発生を0とする。	A	・計画に基づいた避難訓練 ・避難訓練を年間3回以上行うことにより実践力を身に付けるとともに、域内や県内などにおける危機事象等に備えて、なすべき対応等について、職員個々が自ら企画して、対応をイメージする。 ・通知などによる周知徹底を図るとともに、信用失墜行為の防止に関する意図的、計画的な取組や指導により、職員個々の意識化の醸成を図る。	・年度初めの交通安全、地域・トロールの方との交流会、全校朝会等で校区内危険箇所を写真を持って確認し、強く児童に意識させることができた。2学期に「地域安全防犯隊」による防犯教室を開き、児童の防犯意識が一気に高まった。次年度は早い段階で実施できるようにしたい。 ・避難訓練については、二次避難場所を設定しての訓練を行うなど、大規模災害発生時の対応策等の整備が必要である。 ・近隣で発生したのもも含め、危機事象への迅速な対応を図ること職員の実践力や対応力を高めることができた。		
							〇教職員の資質向上	〇教職員の資質及び指導力向上
教育活動	●学力向上	〇言語活動の充実 〇指導方法工夫・改善による基礎学力の向上	(1)国語科の学習を中心に「学び合い」を大切に授業を組織し、主体的に学習する子どもを育成する。 (2)児童個々に応じた指導方法を工夫することで、学力検査のポイントを市平均まで引き上げる。	B	・学習の中に「グループタイム」や「みんなでタイム」を効果的に位置づけ、理解と表現を相互に関連させていく。 ・各教科の学習過程に書く活動を積極的に位置づける。 ・指導方法を工夫し、個に応じた指導を充実させる。	・グループ(少人数)での話し合いをすることによって、主体的な意見や考えが湧き出ている姿が見られるようになってきた。 ・学習内容を十分理解していない児童に対して、つまり早期発見して適切な指導支援をすることが大切である。		
							●心の教育	〇美しい心日本一の推進 〇心の教育3セットの活用
教育活動	〇人権・同和教育の推進	◎いじめ・不登校への対応 ◎情報モラルの指導 ◎人権感覚の育成	(1)いじめ、不登校、虐待などの兆候を見逃さないよう、不登校については未然に防止する。 (2)パソコンや携帯電話の利便性と弊害を理解できる。 (3)「ほのぼのタイム」、集会活動、授業実践を充実させ、児童の人権に対する意欲を高める。	B	・管理職や担任が迎えに行かなくてはならないような状況もあつたが、年間30日以上欠席する児童は0であった。 ・アンケートにおいて「学校に行かなくていい」という回答が子ども、保護者共にポイントが上がった。	・「ほのぼのタイム」を取り入れ、気になる児童については教育相談を行う。 ・中、高学年の児童に、最低年1回の情報モラル指導を実施する。 ・「ほのぼのタイム」により、学級や全校縦割りグループによる仲間づくりを行う。 ・「なかよし集会」や授業の内容を工夫する。		
							●健康・体づくり	◎食育を通した健康・体づくり ◎食育の推進
〇生徒指導	〇基本的な生活習慣の確立 〇危険予知・回避力の育成 〇児童理解の推進	(1)全校が月の生活目標を意識して活動する。 (2)生活事故・交通事故0をめざす。 (3)全職員が気になる児童についての情報を共有し、共通理解を持って指導に当たる。	B	・自転車による交通事故が発生してしまつたことは非常に残念である。しかし、子どもたちにとって、事故に巻き込まれることではなく、自分自身で起こりうることを考えさせるきっかけとなった。	・各学級ごとに月の生活目標の具体的な実践化を図る。 ・安全指導については具体例をあげたわかりやすい指導をこころがける。 ・週1回の生徒指導連絡会を実施し、気になる児童についての情報交換をする。	・生活目標については、学年の発達段階に応じてクラスにより具体的な目標が立てられた。 ・危険な現場の写真などを提示しながら、具体的な指導ができた。 ・気になる児童についての情報を職員間で共有することができた。		
							〇特別支援教育	〇個に応じた対応と指導体制の確立
特定課題	●小学校低学年の学習環境改善充実	〇1・2年生における基本的な生活・学習習慣の育成	(1)「あいさつと返事をする」「時間を守る」ことへの徹底を図り、達成率を90%以上とする。 (2)「話を最後まで聞く」「読書を楽しむ」「音読を毎日する」の徹底を図り、達成率を90%以上とする。	B	・あいさつや読書に関心をもち、十分に達成しているが、「話を最後まで聞く」としてはまだまだ努力が必要である。 ・職員が進んであいさつや声かけをしていく。 ・「時間を守る」「話を聞くための学級のめあてを決め、定着を図る。 ・読書カードや音読カードのチェックにより、定着を図る。	・あいさつは言葉で自分から進んでいっているようにもなっているが、担任以外の先生進んでいる児童もいるようにもなっている。 ・読書カードの読み聞かせの取り組みにより読書への関心が高まり、進んで本を借りるようになった。最後の話を聞くことに関しては、良く聞いているが、必要中力が持続しない児童が多い。引き続き指導が必要である。		

○校種間連携の推進	◎幼・保・小連携の推進 ◎小中連携の推進	(1)小中学校職員の相互交流の場を各3回以上設定し、共通課題・実践について意見交換を行う。 (2)保育参観や授業公開を定期的に実施し、児童理解を深めたり、各校・各園の指導方法を学んだりする。	B ・保育参観、授業参観、学校便りを通して、それぞれの保育方針、教育方針、児童の実態等を理解することができた。 ・山代町小中連携教育研究会実践交流会を3回開いた。 ・TTLによる外国語活動研究授業を行った。	・山代中校区3校で授業公開を行い、互いの授業を見た。 ・小中連携教育研究会で共通課題・実践に取り組む。 ・保小連絡会や保育公開を実施する。 ・学校だよりを手渡しして、その際情報交換を行う。	・入学して約1か月を過ぎた頃、1年生担任と前年度年長児担任との情報交換会を持つことにより、個々の児童についてより深く理解し、指導に生かすことができた。 ・TTLによる外国語活動、中学校一日体験学習での英語と理科の授業を行った結果、中学校での学習に対する6年生児童の関心や期待を大いに高められた。 ・基本的な生活習慣や家庭学習の習慣化について、保育園や中学校との連携、協力体制を確かなものにしなければならない。中学校の「810運動」への継続のためにも、各学年の家庭学習時間の目安について意識化を図り、具体的な手立てを講ずる必要がある。
◎家庭教育力の向上	◎テレビ視聴の制限 ◎家読の推進	(1)「ノーテレビ・ノーゲームデー」の取組の周知を図る。達成率50%を目指す。 (2)「家読」の取組み30%を目指す。	B ・「ノーゲーム・ノーテレビデー」の取組みは70%の達成率になった。 ・「家読」の取組みは30%を下回った。	・「ノーテレビ・ノーゲームデー」と「家読」の取組を児童と保護者に向けてその意義を理解してもらい、実践例を知らせる。 ・チェック表を準備し、意識化を図る。	今年度は「ちゃんとカード」と名称を変え、毎月1週間だけの取組みとした。保護者への啓発がさらに必要である。

6 総合評価

・教育活動全体において、全職員の創意工夫による学校教育目標や重点課題の実現に向けた取組がなされ、児童は落ち着いた環境で学習をすることができた。しかし、「学校運営面」では、まだまだ、学校の願いとすると十分に家庭に伝えきれていない面がある。学校からの情報発信については、学校だよりだけでなく、花まる連絡帳やHP更新などの充実により、一定の評価を受けており、学校行事も参加しやすいものになってきたと感じてもらっている。最優先課題である学力向上については、「教員の資質向上」「指導法工夫・改善に向けた基礎学力の向上」「特別支援教育」「低学年の学習環境改善」など多方面から取組を進めてきた。その結果、標準学力検査において国語・算数とも半数以上の学年で全国並を上回った。しかし、かなり落ち込んでいる学年もあるため、次年度対策が必要である。本校の学力向上を考える時、最も重要なことは、学習意欲を高めること、個別支援の充実、家庭学習の時間確保、家庭との連携が挙げられる。これまで「朝の特設時間」を設定し、基礎学力向上のための「スピーチタイム」「スキルタイム」を実施し、話す力・聞く力を身につけさせることができ、集中して課題に取り組む姿も見られるようになってきた。ただ、朝の時間帯が窮屈であるという反省も出ている。じっくり補充指導ができる時間の確保が必要である。

7 来年度の改善策

・学力向上においては、個別支援の充実を図るため、放課後の補充指導の時間が確保できるよう、週時程に位置づけられた補充指導の時間の設定をする。また、毎日の放課後の時間にゆとりをもたせるため、1校時の開始を15分繰り上げ、児童のつまずきに対し、その日うちに指導できるようにする。学力的にかなり厳しい学年を重点学年として全職員で補充指導に当たる体制を整える。家庭教育力の向上については、次年度から2年間の研究委嘱を受けている「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」に関する研究において、家庭と連携した取組を展開することによって啓発を進めていきたい。特に歯・口の健康に留まらず、望ましい生活習慣を育成することにより、自分の生活をより向上させようとする態度を身につけさせたい。具体的には歯・口の健康づくりに関する授業づくり、健康に関わる日常活動の工夫や環境整備、保護者への啓発活動、専門機関との連携など、児童はもちろん、保護者にとっても教職員にとっても有意義な研究にしていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目